道東ブロックトレセン U-12 強化合宿 in 北見　報告書

期日　平成 23 年 7 月 17・18 日
会場　北見市　モイワスポーツワールド

１．参加選手（18 名）

山崎悟依、津田和哉、佐藤聖椰、本間柊人、高橋海斗（T.WEST）、金子凌大、山本昂汰
西澤雄太（ドリーム）、野瀬龍世、川端一輝（Ｒシュペルブ）、土井雅也、廣田優太（遠矢）
橋本海翔、山田哲大（コンバット）、八重樫健吾（朝陽）、浅井一樹（SSM）
荒井裕斗、鈴木泰輝（愛国）

※ 夏季トレセン参加 23 名から 18 名を選抜

２，スタッフ

後藤雅宏、高橋雄一、新谷昭典

３，はじめに

８月の全道少年選抜を見通した道東各地区及び旭川地区の合同合宿という形で北見市で行われた。１日目は雨、２日目は猛暑の中で行われ、精神的にも肉体的にもタフさを求められる大会となったが、選手は自主的に体調管理でき、また強い気持ちで試合にのぞめた。体調を崩した選手はいなかったことにも継続した BTC の効果が現れているのではないかと感じた。

なお、８人でのフォーメーションは 3-3-1 を基本とし、選手のポジションも変えていきながら様々な可能性を求めていった。

４，対戦結果

一日目	二日目
ＶＳ　根　　室　５ － １　○	ＶＳ　旭　川　Ｂ　２ － １　○
ＶＳ　十　　勝　１ － ３　●	ＶＳ　旭　川　Ｂ　１０ － １　○
ＶＳ　旭　川　Ａ　０ － ２　●	ＶＳ　網　　走　１ － ０　○

５，成果と課題

＜成果＞

○攻撃の優先順位の確認

⇒ オフェンスにおいて最も優先すべき事項の確認がチーム内で確立されている。そのため、裏へぬける動きや、シュートの選択が多く見られた。

○ボールポゼッションの意識

⇒ ボールを失わずに攻撃を展開すること、または、それを意識する事ができてきている。やみくもなクリアや観ないでパスを出したり、無謀なドリブルが減ってきた。

○ＧＫを含めたビルドアップ

⇒GK からの配球が効果的なケースが多くなってきた。また、足下のコントロール技術に課題は見られるものの、GK へのバックパスが有効なケースも増えてきた。

＜課題＞

●組織的な守備

⇒ 守備の原則があいまいになることや、グループでの守備のための個人のチャレンジ（ディレイ、ジョッキー等）に意図がない場合があった。または、オフの選手が観ることができていなかった。

□もう一度、DF に関するトレーニングを 1 対 1 から複数対複数へと人数を変えながら行っていく。

●トランジション

⇒ 攻から守、守から攻への切り替えが遅い場面が見られ、失点のケースやカウンターのチャンスをつぶしてしまうことがあった。

□ゲームの場面を切り取ったトレーニングにより、状況を観ることによって全体と個が対応できるトレーニングを行っていきたい。

●観ること

⇒ 観る事への意識は高まってきているが、何を観て、どう判断するのかといった部分をさらに磨いていく必要を感じた。

□常に、観る事によって判断させたり、問題意識を持たせるようコーチングの中で言葉かけを行っていきたい。

６，全体講評

前回の根室での BTC の反省から、ゴール前での崩しに多くの時間を割いて行ってきた。また、3 種トレセンの協力により、U-13 とのマッチから課題を確認できた事も有効であった。

トレセンでのトレーニング全体を通して、「観る」ことにこだわりを持ってコーチングを行ってきているが、まだこちらが求めているものを具現化しているとは言い難い。妥協無く、「観る」姿勢を求めていきたい。

オフェンスのプライオリティの確認や、フィニッシュにつなげる意識が高まり、各地区とのゲームの中でも、多くのチャンスをつくる事ができてきている。特に、両サイドバックの関わりや、フォワードにくさびを入れた後に展開する動きなど、ゴールに向かう姿勢が高まってきている。サイドにボールを展開しても、第 1 選択がゴールへ向かう動きになっていることは評価できるものであると考える。

半面、ややゴールに急ぎすぎる傾向にあり、縦への突破、インターセプトからの速効、中央で勝負する場面に終始しがちになってきている。ミーティングや選手への声掛けで多少修正できた面はあったが、優先順位を確認しつつも、そこに向かう手だては多くあることをトレーニングの中で確認していきたい。

また、トラジションが遅い場合が目立った。特に、攻撃から守備への切り替えの遅さは 8 人制では致命的である。ファーストディフェンスの確認、意図を持ったチャレンジ、グループでボールを奪うマークとカバーへの俊敏な切り替えを求めていきたい。

今回明らかになった課題を残りのトレセンの中で改善し、8 月の全道少年選抜に向けていきたいと考える。

初日は大雨、二日目は猛暑の中のトレーニングマッチではあったが、選手 18 名が自主的にまた自律して体調管理や気持ちの管理ができたことは大きな成果としてあげられると考える。もはや U-12 の夏季、秋季とつながっていくこの時期は、大人のサッカーへの入り口であると考えられる。そんな点からも、自主自立の精神をこれからも求めていきたい。

最後に本大会に参加するにあたり、多大なるご協力をいただいた各チーム関係者の皆様、日々のトレーニングをさせてくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともトレセン活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

文責：釧路トレセン６年担当　後藤雅宏